

平成22年 6月18日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008～2009

課題番号：20820046

研究課題名（和文） 陽明文庫蔵仮名法語類の研究―「道書類」を中心として―

研究課題名（英文） Research of Kanahougo-ru in the Youmei Bunko Collection with a focus on the "Dousyo-ru"

研究代表者

恋田 知子 (KOIDA TOMOKO)

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・研究員

研究者番号：50516995

研究成果の概要（和文）：

これまでその存在についてほとんど知られていなかった陽明文庫蔵「道書類」について、所収された各作品を特定しながら、内容の考察をおこなった。個々の作品について、現存する諸本のなかでの位置づけを明確にしつつ、全文を翻刻紹介した。近世初期の近衛家とその周辺の文化圏（比丘尼御所）における法語受容の具体相を明らかにし、文学史上における意義付けを試みた。

研究成果の概要（英文）：

I researched the "Dousyo-ru", a hardly known text in the Youmei Bunko Collection. I verified the content of each text in the "Dousyo-ru", and published the results of my research. I studied the ways in which Kanahougo had been received by the Konoe-ke and their intellectual acquaintances (especially the nun's imperial palace) at the beginning of the early modern age, and tried to understand its place in Japan's literary history.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,330,000	399,000	1,729,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,530,000	759,000	3,289,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：仮名法語・陽明文庫・物語草子・説話・近衛・比丘尼御所・中世寺院

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 陽明文庫蔵「道書類」は、三十年程前におこなわれた国文学研究資料館の悉皆調

査によって存在そのものは知られていたが、内容については明らかにされておらず、学界においても未紹介の資料群であった。報告者は、平成17～19年度科学研究費（特別研究

員奨励費)の研究課題「比丘尼御所の文芸文化と室町期の説話・物語草子の研究」(研究課題番号:05J07991)を遂行していた際、お伽草子『幻中草打画』の伝本調査研究をする過程で本書物群を見いだすにいたった。

(2)平成17~19年度科学研究費の研究課題「比丘尼御所の文芸文化と室町期の説話・物語草子の研究」を遂行し、室町期の文芸と宗教文化との関連関係を端的に映じた比丘尼御所こそが、寺社の縁起絵や物語草子絵などの文芸作品、および公家や将軍家、寺家の周辺に存した伝承・説話が行き交う、いわば室町期の文芸サロンとして評価できるとの結論にいたった。なお、その具体的な考察については、平成19年度日本学術振興会科学研究費(研究成果公開費)の助成を受け、『仏と女の室町 物語草子論』として一書にまとめ、公刊している。

(3)こうした比丘尼御所研究の成果を踏まえつつ、室町期における貴族圏と寺院圏との交流の様相について、具体的な書物の発掘・調査・考察といった側面から、さらなる研究を進めていた。その際、陽明文庫蔵「道書類」と称される仮名法語類のなかに、『幻中草打画』や『恋塚物語』などのお伽草子作品が収められていることが判明した。とくにお伽草子『幻中草打画』については、それまで幻のお伽草子と称されるほど、現存伝本不詳の作品であったが、報告者による伝本博搜の結果、三本を見いだすにいたった。このように、現存する伝本の極めて少ない作品が含まれていたことから、「道書類」に所収される全ての作品について特定し、全文を翻刻紹介すべく、各作品の分析を試みた次第である。

## 2. 研究の目的

(1)陽明文庫蔵「道書類」は、お伽草子だけでなく、『仏国禪師法語』や『彼岸記』、『大灯国師法語』などの他、題目のない仮名法語とおぼしき書物を含め、あわせて十八種の写本を一括した書物群である。この書物群が、いつ頃、どのような経緯で書写され、一括されたのかという点については、現在のところ不明ではあるが、慶長・元和年間(1596-1624)の奥書を有するものが含まれていることや、とりたてて書写時期の異なるものも見えないことなどから、おそらく同じ時期に書写された写本群であると判断される。

(2)浄土系や禅宗系などの各法語類が収められており、宗派の偏りのないことを特徴としているのに加え、説法・唱導の場で用いられた道歌を多用するなどの特色が認められる。さらに、前述したように、『幻中草打画』

や『恋塚物語』など、お伽草子のなかでも現存伝本のきわめて少ない作品をも収めていることから、貴重な書物群として位置づけられるのである。

(3)報告者は、陽明文庫蔵「道書類」に所収される作品全てについて、その内容を特定し、個々の作品がそれぞれの現存諸本のなかでどのように位置づけられるのか検討することによって、「道書類」の全体像を明らかにすることを目的とした。その上で、近世前期の近衛家とその周辺の文化圏(とくに、近衛家の子女が入ったとされる比丘尼御所)での享受の様相について明らかにし、制作背景をも含めた全貌を詳らかにすることで、本書物群を日本文学史上に新たに位置づけることを目指した。

## 3. 研究の方法

(1)「道書類」の全貌を知るため、まずは十八種全ての写本について、一点一点を正確に読み解いていく。「道書類」の中には、外題も内題も記されていないものが多く、各書物がいかなる作品なのか、あるいはこれまで見いだされることのなかった新出の文献であるのか、分析・調査を進める。従来知られている作品の一伝本である場合には、諸本のなかでの本書の位置づけを明確にするため、各作品の現存諸本を博搜しつつ、伝本研究を進めると同時に、各作品に関連する文献についても調査・検討をおこなう。それぞれの作品の特定や分析が整い次第、随時、全文の翻刻紹介をおこなっていく。

(2)以上のような作業を通して、各書物の概要、および意義を明確にする一方で、「道書類」の書物群が書写・一括された経緯についての考察も進める。前述したような、近世初期の近衛家やその周辺の文化圏、とりわけ三時知恩寺のような比丘尼御所での享受を検証し、「道書類」の制作背景をも含めた全貌を詳らかにしながら、日本文学史上に位置づけていく。

## 4. 研究成果

(1)「道書類」に収められた十八種の書物について、現在のところ判明しえた各書物の概要を記すと、以下のとおりである。

### ①近ト72イ

写本一冊。法華経関連の仮名法語。

### ②近ト72ロ

写本一冊。本奥書「長享二年卯月十五日」。法然『一枚起請文』などを引用した新出の浄

土宗鎮西系仮名法語。

③近ト72ハ

写本一冊。浄土系要文集。漢文体。

④近ト72ニ

写本二冊。『雲居月双紙』。本奥書「文亀四年三月十七日」。天台真盛宗の開祖真盛上人（1443-95）に帰依した尊盛法親王の逝去に際し、真盛宗二祖盛全が記した法語。『三田國文』45号翻刻紹介。

本書は天台真盛宗内においても伝来しなかった天下の孤本であったため、報告者の発見・研究により、天台真盛宗において、『天台真盛宗西教寺二世盛全上人撰 雲居月双紙』（西村岡紹編著、天台真盛宗教学部、2010年4月）として新たに注釈書が刊行された。

⑤近ト72ホ

写本一冊。『大灯國師法語』抄出本。大灯國師すなわち宗峰妙超（1282-1337）に法語で、宗峰が萩原（花園）天皇の皇后に説示したとされる法語のみを写した抄出本。『三田國文』51号翻刻紹介。

⑥近ト72ヘ

写本一冊。元和七年（1621）写。新出の浄土宗鎮西系仮名法語。

⑦近ト72ト

写本一冊。夢窓疎石『〔二十三問答〕』。夢窓疎石（1275-1351）が観応年間（1350-52）に仏法の道理を道俗の問いに応じて平易に説いた二十三の問答末尾にそのまま続けて、母の求めに応じたとする夢窓の仮名法語が書写され、夢窓による三首の道歌も記されている。一般に『夢窓仮名法語』と称される作品が夢窓の「御袋けんしん」の求めによるとするの共通するが、その内容は異なる。延宝二（1674）年刊の『二十三問答并盲安杖』（前進座真山青果文庫蔵）に、ほぼ同内容の仮名法語が確認できるが、管見の限りでは、現存写本でこの系統にあるものは見いだせず、貴重である。『三田國文』50号翻刻紹介。

⑧近ト72チ

写本一冊。『妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十七』。仮名書き法華經。

⑨近ト72リ

写本一冊。外題『法然上人念佛教化詞』。『法然上人行状画図』（四十八卷伝）の抄出本。法然伝の抄出本としては、同じく陽明文庫に蔵される『黒谷上人絵詞拔書』が知られているが、本書はそれとは異なる箇所を抄出するものである。すなわち、『法然上人行状画図』卷二十所収「河内国天野の四郎」話、卷二十

四所収「法性寺左京大夫信実朝臣の伯母」話、卷二十二所収「往生の用心百四十五ヶ条」などを収めている。『三田國文』49号翻刻紹介。

⑩近ト72ヌ

写本一冊。外題『幻中草抄』。慶長十一（1606）年写。『幻中草打画』の抄出本。絵巻ないし絵本の『幻中草打画』から法語部分のみを抄出し、「幻中草抄」と題したものと判断される。画中詞および道歌の大半が省略されているが、それを補うかのように巻末に新たに計二十七首の道歌を付す点があげられる。それらはいずれも他伝本には特徴的である。『三田國文』47号翻刻紹介。

⑪近ト72ル

写本一冊。『彼岸記』。国会図書館および天理図書館に蔵される仮名草子『彼岸記』と同系統。本作品については、江戸後期とおぼしき版本のみしか伝来していないことから、仮名草子研究において顧みられることはなかったが、本書の出現により成立時期も遡るものと判断される。お伽草子・仮名草子・仮名法語という従来のジャンル区分では把握しきれない「道書類」という書物群のあり方を明示する一書である。『三田國文』52号翻刻紹介予定。

⑫近ト72オ

写本一冊。浄土系仮名法語。

⑬近ト72ワ

写本一冊。お伽草子『恋塚物語』の一伝本。明暦頃の絵入り刊本と高山市歎喜寺蔵写『滝口物語』の二系統が知られるが、本書は両系統それぞれとの関連が推察されるものの、より後者に近いと判断される。ただし、簡素な本文の歎喜寺本に比して、冒頭に著名な恋愛説話を列挙するなど、本書独自の記事も多く、現存伝本のなかでも比較的古い書写年代であると推察される点などから、貴重な伝本と位置づけられる。また、本書の表紙左肩端には「いりさまの御ほん」と打付墨書されており、「入江殿」すなわち三時知恩寺と想定されることから、本書物群の伝来を示す点でも貴重である。『三田國文』46号翻刻紹介。「比丘尼御所文化とお伽草子—『恋塚物語』をめぐって—」（『お伽草子 百花繚乱』笠間書院、2008年9月）。

なお、本書の紹介および考察を発表した後、國學院大學蔵『恋塚物語』屏風について、山本岳史氏により考察がなされ、屏風に貼り付けられた奈良絵本の本文は本書に近似することが判明した。山本岳史氏「〈翻刻と解説〉『恋塚物語』屏風」（『國學院大學で中世文学を学ぶ』第二集、2009年3月）。

⑭近ト72カ

写本一冊。『抜遂法語』抄出本。抜隊得勝(1327-87)の仮名法語のうち「神竜寺尼長老」に宛てたとする法語のみを抄出し、夢窓や法燈の法語や和歌を合写する。

⑮近ト72ヨ

写本一冊。『佛國禪師法語』抄出本。

⑯近ト72タ

写本一冊。夢窓疎石『〔二十三問答〕』。⑦とは異なり、二十三の問答のみで終わる系統である。

⑰近ト72レ

写一冊。『宝物集』二巻本系統の一伝本。前半および末尾を欠くものであり、文意の通らない欠落部分なども多く認められる端本であるが、『宝物集』のなかでも、発心・出家の後、浄土に往生するにいたるまでを十二の門に分けて説く「十二門開示」のみを抄出する点が特徴的である。『三田國文』48号翻刻紹介。

⑱近ト72ソ

写一冊。浄土系仮名法語。

以上「道書類」に収められた十八種のうち、七作品(④『雲居月双紙』、⑬『恋塚物語』、⑩『幻中草抄』、⑰『宝物集』、⑨『法然上人念佛教化詞』、⑦『二十三問答』、⑤『大灯國師法語』)については内容を特定し、本文系統を明らかにした上で、全文翻刻を紹介発表した(『三田國文』連載)。上記の作品以外についても、内容の特定作業を進めており、引き続き翻刻紹介をしていく予定である。

(2) 各書物の特定を進めるなかで、「道書類」には女性に向けた言説が顕著である書物が多く認められることが判明した。三時知恩寺の尼僧が所有者と推定される書物(⑬『恋塚物語』)がある点などからも、やはり近衛家の子女が入寺した比丘尼御所において、本書物群が形成・享受された可能性が濃厚となったのである。

これまで江戸初期の開版以前の書写状況についての考察があまり進んでいなかった禅宗仮名法語についても、⑦『二十三問答』や⑤『大灯國師法語』に顕著なように、女性にむけての言説という観点からの把握の必要性が明らかとなった。開版以降のそれらについては、しばしば子女への仏教入門書的扱いがなされているが、それ以前の書写状況についても上記のような観点、とくに比丘尼御所の尼のような存在による需要を視野に入れることが、今後の禅宗仮名法語研究にも有益であるだろう。

さらに、陽明文庫には法然伝の抜書である『黒谷上人絵詞抜書』が伝来することが知られていたが、⑨『法然上人念佛教化詞』のような別種の法然伝抄出本も伝来しており、十四世紀半ば、知恩院の総力を背景に、宮廷絵師や能書家を総動員して制作され、「勅修御伝」とも称された四十八巻伝が、その後の貴族圏においてどのように享受されたのかをうかがわせる点できわめて重要である。加えて、とくに浄土宗鎮西派にかかわる新出の法語類が認められることから、近衛家と鎮西派のかかわりのほども明らかとなり、浄土系法語研究に益するところも少なくない。

「道書類」は、他にもたとえば④『雲居月双紙』のように、中世末の天台真盛宗の教えとそれを享受した貴族圏の様相を反映した書物であるものの、宗内には伝来していなかった稀書であったという事例もあり、これまで知られていなかった当時の各宗派での言説が顕著となる可能性を十分にはらんでいる。本書物群を基軸に、中世末から近世初期にかけて、近衛家のような貴族文化圏で、禅宗・浄土宗・天台真盛宗といった諸宗がどのようなかかわりを見せ、いかなる宗教テキストを形成し、享受したのか、引き続き考察を進めたい。

(3) 江戸時代に入り、お伽草子の諸作品は印刷文化の発展により版本化され、あるいは豪華な仕立てで絵巻化されるなどして、嫁入り本として享受されるにいたるが、「道書類」はその前段階を想定しうる要素を有すと考えられる。「道書類」は書写年代こそ江戸初期と推定され、比較的新しいものの、貴族圏とりわけ比丘尼御所の尼のような女性たちに、宗派を越えた仮名法語がどのようにとらえられていたのか、具体的に示す宗教テキスト群であると同時に、ジャンルとしての仮名法語やお伽草子、さらには仮名草子といった書物の重なりを見る上でも、きわめて有意義な書物群なのである。

近衛家の文蔵に仮名法語類とともに物語草子が書写され、伝来していたのであり、近衛家の子女に向けて書写されたものである可能性が濃厚であることから、絵草子屋のような存在を介する以前の、物語草子書写の状況を考察する上でも重要な書物群と位置づけられるのである。

(4) 以上(1)～(3)に明示した研究成果について、2009年12月に名古屋大学にて開催された第十回クリスマス研究集会「中世宗教テキスト研究の可能性」において、「尼門跡および尼寺—女性のまなごしの許にある宗教テキスト—」と題し、口頭発表をおこなった。さらに研究会席上での議論を踏まえ、成稿化した(『中世文学と寺院資料・聖教』

竹林舎、2010年度刊行予定)。

一方、本研究にかかわる中世寺院圏における物語草子・説話の生成と享受という視点から、口頭発表や論文発表等をおこなった(仏教文学会本部十月例会発表、『修験道の室町文化』岩田書院(分担執筆)論文ほか)。さらに、本研究の基盤的研究である比丘尼御所の文芸・文化についての研究成果のひとつとして、現存尼門跡の所蔵絵巻について釈文や解説を付した『薄雲御所 慈受院門跡所蔵大織冠絵巻』をまとめ、勉誠出版より2010年3月に刊行した。

以上の研究成果を踏まえた上で、さらに調査範囲を拡大し、各尼寺の事例を蓄積することによって、中近世の尼寺における文芸営為について明確にし、尼寺の文化・文芸史的意義付けを目指し、研究を進めている。本研究での成果を起点としつつ、引き続き、平成22～24年度科学研究費補助金若手研究(B)の助成を受け、研究課題「中近世の尼寺における文芸・文化研究—比丘尼御所を起点として—」に取り組んでいる。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計6件)

- ①恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(四)『[宝物集]』翻刻・略解題」(『三田國文』48号、2008年12月、25～41頁)
- ②恋田知子「江戸初期における絵巻制作の—背景—中井正知・杉原盛安の文化活動—」(『藝文研究』95号、2008年12月、302～318頁)
- ③恋田知子「記述される巡礼—西国・熊野の諸相から—」(『説話・伝承学』17号、2009年3月、47～59頁)
- ④恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(五)『法然上人念佛教化詞』翻刻・略解題」(『三田國文』49号、2009年6月、39～46頁)
- ⑤恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(六)『[二十三問答]』翻刻・略解題」(『三田國文』50号、2009年12月、32～53頁)
- ⑥恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(七)『大灯國師法語』翻刻・略解題」(『三田國文』51号、2010年6月刊行予定)

[学会発表] (計5件)

- ①恋田知子「もう一つの真盛上人伝—陽明文庫蔵『雲居月双紙』の紹介—」2008年度西教

寺教学講習会、宗外講演、2008年6月於、西教寺

- ②恋田知子「新出金剛寺蔵『十種供養式』をめぐって—法華經の唱導と儀礼—」学術フロンティア2009年度公開研究会、2009年10月、於、国際仏教学大学院大学

- ③恋田知子「西国巡礼縁起の諸相—展示解説をかねて—」2009年10月、仏教文学会本部十月例会ミニシンポジウム「西国巡礼縁起」司会・パネリスト

- ④恋田知子「西国巡礼と長谷寺」2009年12月、平成21年度豊山派教師総合研修会 パネリスト

- ⑤恋田知子「尼門跡および尼寺—女性のまなざしの許にある宗教テキスト—」2009年12月、第十回クリスマス研究集会(於、名古屋大学)「中世宗教テキスト研究の可能性」

[図書] (計5件)

- ①恋田知子「比丘尼御所文化とお伽草子—『恋塚物語』をめぐって—」(共著『お伽草子 百花繚乱』笠間書院、2008年9月、234～256頁)
- ②恋田知子『薄雲御所 慈受院門跡所蔵 大織冠絵巻』勉誠出版、2010年3月、全112頁
- ③恋田知子「直談と縁起—墮地獄蘇生の物語—」(共著『遊樂と信仰の文化学』森話社、2010年秋刊行予定)
- ④恋田知子「熊野詣日記—熊野参詣の儀礼と物語草子—」(共著『修験道の室町文化』岩田書院、2010年度内刊行予定)
- ⑤恋田知子「尼門跡および尼寺—女性のまなざしの許にある宗教テキスト—」(共著『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年度内刊行予定)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

恋田 知子 (KOIDA TOMOKO)

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・研究員

研究者番号：50516995

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし